

1 評価目的

- ・「事業の実施状況の確認」、「目標達成状況」等の評価を行うことによって、より効果的、効率的に運行されることを目的とする。

2 評価の流れ

日程	令和2年6月17日 (愛知県バス対策協議会)	令和2年10月 ～令和3年9月	令和4年1月19日 (愛知県バス対策協議会)	令和4年2月17日 (国による第三者評価委員会)
対象路線	幹線系統補助路線	幹線系統補助路線	幹線系統補助路線	国庫補助対象路線
実施内容	計画申請	事業実施	一次評価 (自己評価)	二次評価 (有識者による第三者評価)

※稲武地域バス・藤岡地域バスが該当する地域バス国庫補助路線(地域内フィーダー系統)については、令和3年12月第5回豊田市公共交通会議にて評価を実施済。

令和3年度 豊田市地域間幹線系統 国庫補助対象路線の評価（令和2年10月～令和3年9月）

【第3回愛知県バス対策協議会（令和4年1月19日）における一次評価】

系統	収支率	利用者 (目標)	利用者 (実績)	状況	幹線系統としての利用状況の考察と今後の方針	国庫補助金額
藤岡・豊田線 (加納経由)	37.8%	105,132	80,288	未達	・豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用が全体の4割弱を占めている 市郊外から市中心部への通勤・通学利用が多い ⇒日中や休日利用を増やすための利用促進を検討	8,181,000円
小原・豊田線	28.3%	198,861	149,228	未達	・小原地区からの通勤・通学利用が多い ・小原四季桜の開花時期には観光目的の利用が多い ⇒鉄道駅との接続、四郷地区区画整理に対応した経路を検討 日中や休日利用を増やすための利用促進を検討	20,752,300円
藤岡・豊田線 (西中山経 由)	37.9%	115,135	92,580	未達	・豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用が全体の7割を超えている ・「梅坪駅」、「豊田市」バス停での乗降者数が多いため、 鉄道へ乗り継いでいると思われる ⇒鉄道駅との接続、四郷地区区画整理に対応した経路を検討 日中や休日利用を増やすための利用促進を検討	6,791,000円
旭・豊田線	13.2%	95,498	74,487	未達	・市郊外から市中心部への通勤・通学利用が多い ・接続バス停(広瀬)での乗継利用者が多い ⇒自然豊かな施設が沿線にあることを生かしながら、 日中や休日利用を増やすための利用促進を検討	13,300,300円
さなげ・足助 線	37.8%	200,529	143,258	未達	・中山間地域から市中心部への通勤・通学利用が多い ・市中心部から足助地区の高校への通学利用もみられる ⇒鉄道駅との乗継の利便性を考慮したダイヤの検討の継続 高齢者定期券・一日乗車券など新たな利用促進を検討	17,251,000円
下山・豊田線	35.5%	155,584	118,390	未達	・豊田市と旧下山村を跨ぐ利用が全体の3割を超えている ・「鵜ヶ瀬」「豊田市」利用者が多く通勤・通学利用が主である ⇒高齢者定期券・一日乗車券など新たな利用促進を検討	11,676,500円
高岡ふれあ い 路線②	24.3%	118,958	79,688	未達	・市を跨ぐ利用者は全体の9割を超え、通勤、通学などに利用 されている。 ⇒道路渋滞を考慮した路線改編、ダイヤ改正の検討	7,684,500円

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年 1月14日

協議会名:愛知県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

【交通圏】	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)			
	運営主体	運行事業者	系統名	運行区間			【計画目標指標:利用者数】		輸送量(人)						収支率(%)		
							A:達成	B:未達成	R3計画	R3実績	(平均乗車回)	(運行回数)			R2実績	R3実績	
10豊田	豊田市	名鉄バス(株)	おいでんバス(旭・豊田線)	小渡～豊田市	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握、沿線やなでの飲み物サービス、「広瀬」バス停での乗り継ぎを考慮した他路線のダイヤ改正を実施した。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:95,498 実績:74,487(78.0%) ※前年度比96.4%	36.3	26.1	2.4	11.0	14.1	13.2	豊田市と旧旭町を跨ぐ利用者は、月平均1,240人で全体の14.6%と低い数値にとどまっているものの、市郊外から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。また、広瀬バス停で乗降する利用者也一定数あり、バスを乗り継ぐ利用者がいると思われる。 《地域的・フィーダー的系統》 旭地域バス、小原地域バス、石野地域バス、藤岡地域バス	本路線は様々な観光施設や豊かな自然環境を有する地域を運行しており、こうした環境を生かした利用促進策を講じる必要がある。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、沿線広瀬やなでの飲み物サービスの実施や1日乗車券の導入などの利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	名鉄バス(株)	おいでんバス(小原・豊田線)	上仁木～豊田市	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態を把握するとともに、四郷地区区画整理に対応した路線の検討を行った。また、小原四季桜の開花中に増便をして、利用促進を図った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:198,861 実績:149,228(75.0%) ※前年度比94.6%	84.6	59.1	5.1	11.6	31.7	28.3	豊田市と旧小原村を跨ぐ利用者は、月平均1,984人で全体の11.5%と低い数値にとどまっているものの、加茂丘高校～四郷間の利用が非常に多く、通勤・通学手段だけでなく鉄道への乗継としても重要な役割を果たしている。 《地域的・フィーダー的系統》 小原地域バス、藤岡地域バス	上仁木～加茂丘高校間は利用者が少なく、平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、鉄道への接続(愛知環状鉄道梅坪駅)と四郷地区区画整理に対応した経路の検討を継続する。また、昼間や休日の利用を増やすため、高齢者定期券や1日乗車券の導入などの利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	名鉄バス(株)	おいでんバス(藤岡・豊田線(西中山経由))	藤岡中学校前～西中山～豊田市	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態を把握するとともに、四郷地区区画整理に対応した路線の検討を行った。また、小原四季桜の開花中に増便をして、利用促進を図った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:115,135 実績:92,580(80.4%) ※前年度比100.9%	50.9	39.5	5.2	7.6	30.1	379.0	豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用者は、月平均7,750人で全体の72.5%を占めている。「加茂丘高校」での乗降が多く、通学に利用していることがうかがえる。 また、「梅坪駅」、「豊田市」バス停での乗降も多く、鉄道へ乗り継ぎをしていると思われる。 《地域的・フィーダー的系統》 藤岡地域バス	上仁木～加茂丘高校間は利用者が少なく、平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、鉄道への接続(愛知環状鉄道梅坪駅)と四郷地区区画整理に対応した経路の検討を継続する。また、昼間や休日の利用を増やすため、高齢者定期券や1日乗車券の導入などの利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	豊栄交通(株)	おいでんバス(さなげ・足助線)	豊田厚生病院～百年草	車両の中型化、及び「広瀬」バス停での他路線との乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を実施した。また、交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を行った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:200,529 実績:143,258(71.4%) ※前年度比100.7%	70.0	55.4	3.4	16.3	30.0	37.8	市町村を跨いでの利用者は月平均で3,968人と全体の約24%にとどまっているものの、中山間地域から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。また、近年は市中心部から足助地区の高校へ通学する利用者も増えている。 《地域的・フィーダー的系統》 (豊田市)保見地域バス、(豊田市)石野地域バス、(豊田市)足助地域バス、(みよし市)さんさんバス	鉄道駅との乗継の利便性を高めるダイヤ改正及び車両の中型化の状況を把握する。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、高齢者定期券や1日乗車券の導入などの利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	豊栄交通(株)	おいでんバス(下山・豊田線)	大沼～豊田市 【公有民営方式車両購入費国庫補助金の交付対象】(1台)	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を継続して実施するとともに、沿線施設の地域医療センターにバス位置情報のリアルタイムモニターを設置した。また、交通結節点である藤岡支所の運用を開始した。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:155,584 実績:118,390(76.1%) ※前年度比97.9%	82.3	60.3	5.2	11.6	48.1	35.5	豊田市と旧下山村を跨ぐ利用者は、月平均4,092人で全体の30.5%を占めている。「輪ヶ瀬」バス停や「豊田市」バス停の利用が多く、通勤・通学手段として利用されていることがうかがえる。 《地域的・フィーダー的系統》 (豊田市)下山地域バス、(豊田市)松平地域バス、(豊田市)水源東バス	利用者の増加を目指すため、通勤・通学等の日常利用以外の観光目的での利用を促進していく必要があり、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、高齢者定期券や1日乗車券の導入など利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	豊栄交通(株)	おいでんバス(藤岡・豊田線(加納経由))	藤岡支所～豊田市	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を継続して実施するとともに、沿線施設の地域医療センターにバス位置情報のリアルタイムモニターを設置した。また、交通結節点である藤岡支所の運用を開始した。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:105,132 実績:80,288(76.4%) ※前年度比99.8%	48.5	34.9	3.1	11.3	30.4	37.8	豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用者は、月平均4,278人と全体の38.0%を占めている。市郊外から市中心部への通勤・通学手段として利用されている。また、昼間時においても、市郊外から市中心部への利用が一定数みられ、生活交通として重要な役割を果たしている。 《地域的・フィーダー的系統》 藤岡地域バス	平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、高齢者定期券、1日乗車券の導入や、地域医療センター・猿投神社・猿投山の登山口などの沿線施設や観光資源と連携した利用促進策を検討する。
10豊田	豊田市	高岡ふれあいバス 共同	高岡ふれあいバス(路線②)	上丘町～知立駅	前林地域全戸アンケート結果等を踏まえ、土橋駅又は市中心部への延伸、基幹バス化などの方向性について検討した。また、知立市では、ミニバスガイドにおいて、同路線に接続可能であることを継続的に記載した。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B	目標:118,958 実績:79,688(67.0%) ※前年度比91.7%	43.2	28.8	2.0	14.4	25.5	24.3	市を跨ぐ利用者は、1日平均203人で全体の92.9%と利用者の大部分を占めている。通勤・通学や通院・買い物等の手段として重要な役割を果たしていると考えられる。 《地域的・フィーダー的系統》 (豊田市)高岡ふれあいバス、(知立市)ミニバス	土橋駅又は豊田市市中心部への延伸、基幹バス化など、ふれあいバス路線全体の改編について検討する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年 1月14日

協議会名:	愛知県バス対策協議会
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	鉄軌道網の整備が進み基幹的公共交通網は維持されているが、自動車分担率が高い地域であることを踏まえた上で、複数市町村を跨ぐ広域的・幹線的な公共交通網の維持・確保を図る。 実施に当たっては、乗合バス事業者等運営主体と沿線市町村が協力して目標設定、利用促進、利便性・生産性向上検討を行い、事業評価にあたっては、運営主体、沿線市町村が情報交換、意見交換を行って、路線の状況を共有化。